

みかん(柑橘類)の秀品率が大幅に向上! 糖度アップ、浮皮是正、鮮やかな色上げに

発酵リン酸液肥「ファーム」 & 発酵リン酸+カルシウム液肥「紅心(べにごころ)」

● 温州みかんによる試験結果 [農業改良普及センター等(九州地区)]

(1) ファーム

- ① ファーム処理区(以下、処理区)は、無処理区より果実の熟期が充実し、収穫開始が1週間前進した。
- ② 9月下旬~10月上旬収穫分で処理区、無処理区を比較したところ、
 - ・ ファーム処理区は無処理区と比較し、秀品率以上の割合が、1.45倍であった。
 - ・ 処理区は糖度10%以上の割合が無処理区の1.83倍、酸については両処理間に差は見られなかった。
- ③ 処理区は無処理区と比較し実締まりがよく、比重が高く、浮皮果が見られなかった。
- ④ ファーム使用による薬害は認められなかった。

[2年間の試験データ]

a. 露地みかん

品種	日南	岩崎	上野	原口	させぼ温州	青島	金峰	デコボン
測定時期	10月上	10月上	10月上	11月下	12月上	12月中	12月中	12月中
糖度	11度	11~12度	11度	14~16度	13~15度	13~15度	13~15度	13~15度
収穫量(2年平均)	-	-	5~6t/10a	5~6t/10a	7t/10a	4~5t/10a	-	-

b. ハウスみかん

品種	宮川早生7年生	上野早生18年生	興津25年生	デコボン
栽培面積	12a	12a	10a	10a
糖度	12~13度	12~13度	13~14度	13~14度
収穫量(2年平均)	8.6t	7.5t	6.5t	4~5t

(2) 紅心(べにごころ)

- ① 処理区は無処理に対し着色が早く、表皮が綺麗であった。
- ② 同一ハウスみかん(長崎県)の処理区、無処理区の比較写真
 - ・ 無処理区(平成21年6月5日撮影)
 - ・ 処理区(平成21年6月5日撮影)



● 使用方法

(1) ファーメント

① 露地栽培・・・隔年結果の是正、糖度アップ、日持ち向上、浮皮是正、花芽分化促進など

- ・ 開花期前後（4/下～5/上頃）にファーメントの500倍希釈液を7～10日おきに3回散布。
- ・ 増糖期（7/上～8/上頃）にファーメントの500倍希釈液を7～10日おきに4～5回散布。
- ・ 着色促進・減酸・増糖対策として収穫30～45日前頃から15日前まで、3日間隔3～4回散布。
※ 収穫後、ファーメントの500倍液と窒素肥料（アミノ酸液肥など）の葉面散布を年2～3回行なうと樹勢回復と花芽分化促進の効果が期待できます。

備考・・・整枝剪定により、収量及び品質に差が出るため、的確な剪定を心がける必要があります。早生種は出蕾後（有葉花確認後）～開花直前まで、晩生種は有葉花の強弱の確認後、開花直前までと、果径1cm以降～6月下旬までに混み合った部分を剪定する。

② ハウス栽培・・・糖度アップ、果実肥大、着色向上、浮皮是正、花芽分化促進など

- ・ 夏季剪定後、緑化推進・結果母枝の充実促進を目的に、ファーメント500倍液を5～7日おきに4～5回散布。
- ・ 10月下旬以降、花芽分化促進・着果促進目的としてファーメントの500倍液を加温する45日程度前から3日連続散布を3日間隔で2～3回散布する。
- ・ 開花前後に500倍希釈液で2～3回散布。
- ・ 水切り後（増糖期）の水戻し時期以降に、10a当りファーメントの500倍液1000リットルを樹幹下灌水で7～10日おきに2～3回行なう。

備考・・・整枝剪定により、収量及び品質に差が出るため、的確な剪定を心がける必要があります。適正な側枝作りによって、樹幹下まで日がよく入ることが必要。ハウスミカンの場合、呼吸と蒸散量が多く、土壌から水分を多く必要とするため、完全な水切りを長期間行なわないよう注意が必要である。（葉及び果実へのストレス過多となる）

(2) 紅心・・・着色向上、鮮やかな色上げ、日持ち向上、食味向上（収穫前の仕上げとして）

- ① 2～3分着色 ② 出荷7～5日前の時期

以上、2回に分けて500倍希釈で葉面散布を行なってください。

使用方法は、露地、ハウス同様の方法でご使用ください。

※ ファーメント & 紅心の使用上の注意

- ・ 「石灰硫黄合剤」、「アルカリ性農薬」、「マシン油」との混用は行なわないでください。
- ・ 銅剤との混用及び近接散布は避けてください。